わが市を語る 1

むつ市（青森県）

人と自然が輝く やすらぎと活力の大地 陸奥の国

むつ市長　宮下順一郎

本州てっぺんの癒やしの大地に拠点としてきらめくまち

むつ市は、本州のてっぺん、マサカリのように津軽海峡に突き出ている下北半島の中心部に位置し、豊かな海、緑あふれる大地にはぐくまれた山海の幸や風光明媚な景勝地など、数々の自然の恵みを受けながら発展してきました。

北は津軽海峡、南は陸奥湾、西は平舘海峡に面し、日本三大霊場の一つである「恐山」をはじめ、「薬研温泉」「湯野川温泉」とそれに連なる四季折々の表情を見せる渓流、そしていくつかの伝説が伝わる「鯛島」などがあり、これらは下北半島国定公園として親しまれています。

本市の生い立ちは、下北半島地域の政治、経済の中心であるとともに交通の要衝でもあった「旧田名部町」と、内湾という地の利から明治時代には海軍水雷団が設置され、戦後は海上自衛隊大湊地方隊や航空自衛隊第42警戒群により、基地のまちとして発展した「旧大湊町」が昭和34年9月に合併し誕生した、「大湊田名部市」がその始まりです。翌昭和35年8月、全国で初めての平仮名の市「むつ市」に改称、平成17年3月、2町1村と合併し、それぞれの地域が持つ歴史や文化、そして新たな枠組みに郷土を託す地域住民の思いを受け継ぎ、「人と自然が輝く　やすらぎと活力の大地　陸奥の国」を新生むつ市の将来像として掲げ、新たな歩みを力強く進めています。

本市を特徴づけるものとしては、現在、準備工事が進められ、国内で初めての施設となる「使用済燃料中間貯蔵施設」があります。これは、国策である原子燃料サイクル事業に重要な意味を持つ施設で、原子力発電所で使用した使用済燃料を原子力発電所以外の場所で一時的に貯蔵しておく施設です。

また、わが国最初の原子動力実験船「むつ」から生まれ変わった世界最大級の海洋地球研究船「みらい」は、本市の関根浜港を母港として海洋における炭素循環の解明に関する研究など、地球規模での海洋科学研究に重要な役割を担っています。

さらに、青森県は食料の一大供給地としてその役割を果たしていますが、本市もその一翼を担っているところです。これらから、本市は北の守りと食、エネルギー、海洋研究のまさに国内的ないしは国際的拠点であると誇りに思いつつ、本市のアイデンティティとしてさらに生かしていかねばと考えるところです。

「むつ市のうまいは日本一！」のセカンドステージへ

私は、市長就任以来一貫して第一次産業がすべての産業の基となるとの思いから、「むつ市のうまいは日本一！」を掲げ、関係者はじめ地域住民を鼓舞しつつ、生産基盤の充実化に努め、全国に向け情報を発信してきました。

農業では、糖度の高い「一球入魂かぼちゃ」、冷涼な気候を生かした「夏秋イチゴ」「高原レタス」など高付加価値化を図っています。また、フランスブルゴーニュ地方と似かよった気候を生かして、地元企業が〝本州てっぺん〟の「下北ワイン」を誕生させ、現在はブドウの生産から醸造、出荷まで一貫して当地で行うまでになり、平成20年度の国産ワインコンクールにおいて「銅賞」を受賞したことがそのブランドにさらなる箔を付け、事業展開に大きな弾みとなったところです。

また、漁業では、ホタテ養殖のほか漁獲金額県内第1位のナマコのほか、ヒラメや津軽海峡の荒波にもまれて育った海峡サーモンなど、育てる漁業を核にしています。

このように、本市では冷涼な北国ならではの自然環境を生かした特選素材を開発・生産し、関連産業の育成にも結び付けています。

本年度はそのセカンドステージとして、販路開拓にさらなる磨きをかける意味で首都圏において本市と縁のある方々を中心とした「元気むつ市応援隊」を結成したところであり、本市の物産、観光、文化資源などのPRに一役買っていただくとともに、首都圏のさまざまな情報の提供や地域振興に関する提案などをいただき、生産・販売力の強化や交流の促進そして地域の活性化につなげていきたいと考えています。

「産業振興の芽出しを促し、雇用の前進を確実に」を願って

合併後の本市の土台づくりとそれを確かなものとするための検証を当面の市政運営の指針とし、地域の声を聴くために「おでかけ市長室」や各地区庁舎において終日執務する日を設けるなどして各地区にきめ細かく足を運び、広報広聴の充実進化に努めています。

この中においても、第一次産業における担い手問題がテーマになることがしばしばですが、この問題を含め雇用の場の創出、拡大は本市にとって、また、下北半島地域全体にとって共通の最大の課題です。

第一次産業などの既存産業の拡充を図るほか、本市および周辺地域に立地が見られるエネルギー関連産業と地元企業との連携をバックアップする役目を本市が担いながら人材の育成と併せ、新たな産業の芽出しにも努め、雇用の前進を確実なものにしていきたいと考えています。

来年12月には、東北新幹線全線開業が予定されており、これを本市はじめ下北半島地域の活性化に結び付ける好機ととらえ、玄関口となるJR大湊線下北駅の周辺整備など受け入れ基盤づくりに努める一方で、種々の仕掛けも練っているところです。

本州のてっぺん、下北半島の癒やし空間の醍醐味とともに、躍動感あふれる本市の心温まる人情と風情に、できるだけ多くの方々が足を運び触れていただきたいと思っています。

おでかけ市長室開催の模様。「各種団体編」「町内会編」「青春編」を実施中

プロフィール

むつ市長
宮下順一郎

◆面積　863・79㎢
◆人口　6万4673人
◆世帯数　2万8763世帯

〔将来都市像〕人と自然が輝く　やすらぎと活力の大地　陸奥の国

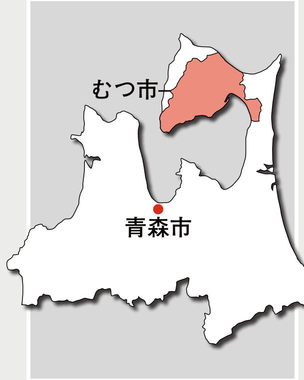
〔まちの特徴〕県内第1位の行政面積を持つ下北圏域の中核都市。ナマコは漁獲金額県内第1位。天然記念物「北限のニホンザル」、特別天然記念物「ニホンカモシカ」が生息

〔市町村合併〕平成17年3月14日、旧川内町、旧大畑町、旧脇野沢村を編入合併

〔特産品〕一球入魂かぼちゃ、イチゴ、レタス、ホタテ、ナマコ、ヒラメ、海峡サーモン、クロソイ、アカガイ、下北ワイン、イノシシ肉

〔観光〕日本三大霊場・恐山、秀峰・釜臥山、薬研渓流、川内川渓谷、鯛島、薬研温泉、湯野川温泉

〔イベント〕大湊ネブタ、田名部まつり、大畑海峡サーモン祭り、川内高原まつり＆べこまつり、わきのさわ・かさまいまつり、憲法記念下北駅伝競走大会



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 2

「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」 “生涯を完結できる空の港まち”成田へ

成田市（千葉県）

成田市長 小泉一成

観光客で賑わう情緒豊かな表参道

はじめに

成田市は、千葉県の北部中央の北総台地に位置し、北は利根川に、西は印旛沼に接しています。

古くから霊場として名高い成田山新勝寺や義民で有名な佐倉宗吾の菩提寺である宗吾霊堂を中心として、風情豊かな門前町として栄えてきました。

その一方で、日本を代表する空の玄関口である成田国際空港は、年間航空旅客数約3300万人、航空貨物量約190万tを誇ります。

平成18年3月には、隣接していた香取郡下総町、大栄町と合併して、新生「成田市」が誕生しました。

癒やしのまち・成田

JRと京成電鉄の成田駅前から新勝寺境内入口まで約800mの参道が続きます。ここには、名物のようかん、うなぎ、鉄砲漬、地酒、手焼きせんべい、民芸品などのお店が軒を連ねています。このようなお店には創業100年以上という歴史的な貫禄（かんろく）を見せる老舗も珍しくありません。また、見上げるばかりの3階建て木造建築の大型旅館などが目を引きます。

この情緒豊かな表参道を通って昨年11月に建立された総門を抜けると、お寺の本堂へつながります。新勝寺の大本堂の裏手には、総面積16万5000㎡を誇る成田山公園があります。四季を通じて飽きることがない和みの風景が広がります。

この懐かしい風景の中でゆったりとした時間が過ぎ、心を落ち着かせてくれるはずです。これが癒やしのまち・成田です。

本年度からラジオのベイエフエムを活用して、本市のイメージを連想させる代表的な情景描写を取り混ぜたメッセージを流すとともに、イベントなどのお知らせを行い、本市のイメージを積極的にPRしていきます。

犯罪のない安全、安心なまちづくり

本市では、「成田市防犯まちづくり推進条例」に基づき策定した防犯まちづくり推進計画により、市民が安全に、かつ、安心して暮らせる地域社会を実現するため各種防犯施策を推進しています。特に、青色回転灯パトロール車を使用した防犯巡回指導員によるパトロールや小中学校の通学路において防犯広報啓発パトロールを実施するとともに、JR成田駅西口に「駅前番所」を設置し、市民や駅利用者の安全確保に努めています。

また、本年度は、この駅前番所事業を拡大し、現在防犯活動が不足している夜間や休日において、主要公園や無人駅などの犯罪が発生しやすい場所を中心に、警察官経験者が青色回転灯パトロール車による駐留と巡回を行う「移動駅前番所」事業を開始し、さらなる犯罪の防止活動に努めていきます。

警察OBによる防犯パトロール

次代を担う心豊かな人材の育成

教育は人をつくり、国をつくり、世界をつくります。教育の方向性が人類の未来を決めるという考えから、本市ではさまざまな教育支援策を積極的に展開しています。

総務省統計局の「統計でみる市区町村のすがた2008」による首都圏の公立小中学校教員1人当たりの児童生徒数ベスト10で、小学校が第1位、中学校が第2位に位置付けられており、児童生徒一人ひとりに目が行き届くトップレベルの教育環境の充実が図られています。

特に、本市独自の学力向上策としては、きめ細かな指導を行うための少人数学習推進教員や特別支援教育支援員、複式学級となるような小規模校の教育の充実を図るために配置する小規模学校支援教員、そして、養護教諭と共に児童生徒の心と体の健康管理に努める健康推進教員などを配置し、学校の規模にかかわりなく、多様な教育支援策を行っています。

また、本市の特徴的な教育の一つである英語教育では、小学校31校と中学校9校に、英語科を設置し、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の基礎を育成するため、引き続き全小中学校に外国人英語講師を配置し、実践的な英語教育を推進していきます。

結びに

市役所は、最大のサービス業であることから、市民ニーズに的確に対応できる利便性の高い市役所を目指し、従来型の「お役所」から「市民のために、本当に役に立つ所」へと転換を図り、フットワークが良く、できるだけフラットで効率的な行政運営を推進していかなければならないと考えています。

本市12万6000市民と共に一丸となって、温かみと思いやりを持った「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」の次世代に誇れる空の港まち、生涯を完結できるまち・成田の創造に向けて、市政の運営に取り組んでいきます。

プロフィール

成田市長
小泉一成

◆面積 213.84㎢
◆人口 12万5797人
◆世帯数 5万3411世帯

〔まちの特徴〕成田山新勝寺や宗吾霊堂を中心とした風情豊かな門前町として栄える一方で、日本の表玄関である成田国際空港を中心とする国際観光都市として発展

〔市町村合併〕平成18年3月、成田市が下総町と大栄町を編入合併

〔特産品〕コメ、サツマイモ、ようかん、漬物、せんべい、つくだ煮、地酒

〔観光〕成田山新勝寺、宗吾霊堂、坂田ヶ池総合公園、さくらの山、グリーンウォーターパーク、三里塚御料牧場記念館、千葉県花植木センター

〔イベント〕節分会（成田山新勝寺・宗吾霊堂）、梅まつり、おどり花見、成田太鼓祭、成田祇園祭、成田ふるさとまつり、御待夜祭、産業まつり、明治大学・成田社会人大学、成田POPラン大会、青少年綱引き大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 3

富士山静岡空港が開港！ さらなる飛躍を目指して

菊川市（静岡県）

菊川市長　太田順一

みどり豊かな自然と都市機能が共存するまち

　菊川市は、静岡県の中西部に位置し、南アルプスの支脈、粟ヶ岳山麓を水源とする一級河川「菊川」が市の中央を流れています。東には、明治初頭の大規模開拓により形作られた「日本一の大茶園」牧之原台地が広がり、南には遠州灘を望む、温暖な気候に恵まれた自然豊かな都市です。

　また、市内にはJR東海道本線菊川駅、東名高速道路菊川インターチェンジがあり、近隣にはJR東海道新幹線掛川駅、御前崎港、富士山静岡空港を有し、陸・海・空の交通基盤に囲まれ、利便性に恵まれた将来性豊かな地域となっています。

　本市が目指す将来都市像を「みどり次世代～人と緑・産業が未来を育むまち～」と設定し、本年度は、「市民・地域との協働によるまちづくり」「行財政改革の推進」「子育て支援・教育環境の整備」「よりよい環境づくり」「地域経済・産業の活性化」「主要地方道掛川浜岡線バイパスの整備」「市立総合病院の安定運営」の7つを重点項目に掲げ、「住んでよかった、住みたくなる」まちづくりに努めております。

富士山静岡空港の西側玄関口として

　本年6月4日に、待望の富士山静岡空港が開港しました。富士山静岡空港からは、日本が世界に誇る富士山や牧之原台地に広がる大茶園を一望することができ、今後、国内外との幅広い交流や地域の発展が期待されています。

　富士山静岡空港と菊川駅を25分で結ぶ直通のシャトルバス路線も開設され、本市においてもこの空港開港を機に、交流人口の増加やビジネスチャンスの拡大が予想されます。重点項目の一つにも掲げている「地域経済・産業の活性化」を実現すべく、企業誘致や雇用の創出、菊川茶をはじめとした特産物、工業製品の販路拡大に努め、「富士山静岡空港の西側玄関口」として発展を目指しています。

　本市の特産品である深蒸し茶は、豊かな香りと、まろやかでコクのある風味が特徴です。近年、ペットボトルのお茶が身近になり、急須で入れる「リーフ茶」離れが若者を中心に進んでいるように感じられます。そこで、本市では今年度から「新婚家庭へのお茶と急須のプレゼント」や「お茶の淹れ方教室」などを開催し、草の根的なお茶の普及活動も展開しています。本年10月24日から11月8日まで、静岡県で開催される国内最大の文化イベントである「国民文化祭・しずおか2009」でも、お茶をテーマに「お茶の波紋from菊川」と題し、菊川の文化を発信していきます。ぜひ全国の皆さま、本市にお出掛けいただき、ペットボトルのお茶とは一味違う、まろやかで深みのある菊川の深蒸し茶を味わっていただければ幸いです。

市内に広がる大茶園

菊川市出身の漫画家、小山ゆう氏の原作「チェンジ」の国民文化祭での上演の模様

菊川市誕生5周年を記念して

　本市は平成17年1月17日に、菊川町と小笠町が合併して誕生し、本年度は「菊川市誕生5周年」の節目の年を迎えました。これを記念し、郷土の偉人・先人を顕彰し、その遺徳を広く市内外へ紹介していきたいと考えています。

　その主な取り組みは、ふるさとを愛し、新しい国づくりに尽力した郷土ゆかりの偉人、初代静岡県知事・関口隆吉氏を顕彰していくものです。

　江戸の幕臣の家に生まれた関口氏は、明治維新後に本市月岡の地に居を構え、牧之原大茶園の開拓に心血を注ぎました。こうして関口隆吉氏と私たちのまち・菊川との深いつながりができたのです。人格は高潔にして、仁政に富んでいたので、明治政府からもその能力を高く評価され、山形県参事や、山口、静岡の県令を歴任し、明治19年には地方長官官制公布により、初代静岡県知事に任命されました。

　徳川慶喜の側近でもあった関口氏は、大政奉還から明治新政府スタートにかけて慶喜の国政をたすけて活躍し、政府の要職を歴任する中、国内でも有数のお茶どころとなっている現在の本市の礎を築いた一人です。

　関口氏が開拓に心血を注いだ牧之原の茶園地帯は、そのすそ野に富士山静岡空港が開港し、新たな時代の幕が開きました。本市誕生5周年という節目の年に、この偉大な先人の生きざまに触れ、功績を見詰め直すことで多くの市民が郷土への思いを深めてくれるきっかけとなればと期待しています。

　最後になりますが、先行きが不透明な経済状況の中、市民のニーズもますます多様化・複雑化してきており、私たち地方を取り巻く状況は大変厳しいものがあります。このようなときだからこそ、郷土愛の精神で、本市の将来像である「みどり次世代～人と緑・産業が未来を育むまち～」の実現に向け、市民の皆さんとの協働により、持続可能な自立した都市を目指してまいります。

プロフィール

菊川市長
太田順一

◆**面積**　94・24㎢
◆**人口**　4万5694人
◆**世帯数**　1万4514世帯

〔将来都市像〕みどり次世代～人と緑・産業が未来を育むまち～

〔まちの特徴〕一級河川「菊川」の中流域に広がり、東には日本一の大茶園牧之原台地を擁し、南には水田地帯が広がる。温暖な気候に恵まれ、農業と工業の調和がとれた自然豊かな田園都市

〔市町村合併〕平成17年1月17日　菊川町、小笠町が合併し、菊川市となる

〔特産品〕茶、水稲、トマト、ブルーベリー

〔観光〕黒田家代官屋敷、横地城跡、上倉沢棚田、火剣山キャンプ場、丹野池公園、応声教院

〔イベント〕潮海寺八坂神社祇園祭り、黒田家代官屋敷梅祭り、菊川公園夜桜ライトアップ、ホタル観賞会、夜店市

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 4

市民との徹底対話で協働のまちづくりを目指す

三田市（兵庫県）

三田市長　竹内英昭

はじめに

三田市は、兵庫県の南東部に位置し、神戸市の市街地から六甲山系を越えて北へ約25km、大阪市から北西へ約35kmの圏域にあります。

北は篠山市、東は宝塚市、南は神戸市に接しています。豊かな環境と穏やかな気候に恵まれたこの地に人々が暮らし始めたのは、はるか数万年前の旧石器時代にまでさかのぼります。長い歴史を持つまちであるとともに、ニュータウン開発に伴い、昭和62年から10年連続で人口増加率全国一となるなど、豊かな自然と良好な都市空間を有する都市として注目を集めています。

また、肥よくな農地に恵まれており、地域ブランドとして登録した「三田牛」「三田肉」をはじめ、おいしくて安全な農畜産物は市内外から高い評価を受けています。地元でとれたものが、食卓や学校給食に並ぶという「地産地消」の取り組みも進んできています。

そして、TVや多数の著作などで三田出身や三田ゆかりの人物が数多く取り上げられたことにより、多くの傑出した人物を輩出したまちとしても最近注目を集めています。日本で最初にビールを作った幕末の蘭学者川本幸民、日本最初の心理学者元良勇次郎、帝国博物館初代総長の九鬼隆一、NHKドラマの放映によって、クローズアップされている吉田茂首相の側近として活躍した白洲次郎。また白洲次郎の祖父であり藩政改革の立役者である白洲退蔵など。その退蔵のお墓がある三田の古刹・心月院に次郎も妻の白洲正子と共に眠っていることも広く知られています。

対話とメッセージ

本市は、昨年に市制施行50周年を迎え、まちづくりの軸足をこれまでの「成長」から「成熟」へと移してまいりました。人口急増期には、教育施設をはじめとする公共施設など都市基盤の充実に多くのエネルギーを注いでまいりました。今後は、三田の地に住まう人々が安心して快適な暮らしを実現できるための施策に重点を置いていきたいと考えております。

本市には、行財政改革や市民病院の運営など諸課題がありますが、これらの問題は、行政が重点的な役割を担うことによって解決が可能な事柄だと考えます。

しかし、まちが成熟化へと歩み出すと、行政だけでは解決できない長期的な課題が生じてまいります。例えば、質の高い暮らしをいかに実現するのか、などという課題を前にすると、予算や人員にも限界がある行政だけでは太刀打ちできなくなってくるものです。そここそ、市民との協働によるまちづくりを進めるゆえんがあると考えます。

月２回のラジオ放送「モーニングカフェ」でまちづくりについて語る竹内市長

そのため、市長就任以来、市民協働のまちづくりを進めるに当たって、市民の皆さまと徹底した対話の機会とメッセージの発信に努めなければならないと考え、さまざまな取り組みを行っております。

月に2回、地元コミュニティFM局にて、まちづくりを伝える番組「モーニングカフェ」への出演。ラジオ番組では、本市の施策などをできる限り分かりやすく伝えようと苦心しながらリスナーに語り掛けています。放送への反響も上々でリスナーからの意見や質問などにもお答えすることによって、市民の皆さまとのコミュニケーションが図られつつあります。

そして、月に一度は、市民団体とまちづくりについて語り合う「市長と本音でトーク」。広報紙を通じて、参加団体を公募、幅広いテーマで語り合っています。毎回、いろいろな団体の方々とのトークは、市民の生の声を直接聴くとともに市長の声を直接伝えることもできる貴重な場となっています。この場から新たな施策のヒントも生まれつつあります。

また、月に一度、広報紙を通じて市民の皆さまへのメッセージを欠かさず掲載しております。「新型インフルエンザ」「少子高齢化」など、その時々のまちづくりの課題をキーワードに短くメッセージとしてまとめています。市民の皆さまとまちづくりの課題を少しでも共有するとともに、本市の取り組みに共感いただくことができればと考えながら原稿をしたためています。

このような取り組みは、市民の皆さまとの強固な信頼関係を築かなければ協働の実現もないとの考えから、現在も続けております。

協働のまちづくりをさらに深化

昨年7月の市制施行50周年の式典において、協働のまちづくりの指針となる「三田まちづくり憲章」を発表いたしました。この憲章は、「人権の尊重」「福祉・健康の充実」「自然環境の保全」「文化の創出」「未来への希望」など、まちづくりへの思いを込め、市民主体でつくり上げたもので、まちづくりの基本理念と市民の行動規範を示しています。

市民の満足度と地域力を高めていくためには、「自らのまちは自らの手でつくる」という意識の下、市民と行政が役割分担を認識しながら、まちづくりを進めていく必要があります。今後は、まちづくりの仕組みやルールを法的に制度化することとなる「まちづくり基本条例」の制定に向け、取り組みを進めてまいります。

市制施行 50 周年記念式典で「三田まちづくり憲章」を披露する子どもたち

プロフィール

◆**面積**　２１０・22㎢
◆**人口**　11万４２６８人
◆**世帯数**　４万１６３８世帯

〔将来都市像〕
人と自然が輝くまち・三田

〔まちの特徴〕 都市近郊に位置しながら豊かな自然に恵まれ、鉄道や高速道路などの交通網や大規模ニュータウンや工業団地の整備も進み、活力ある中核都市としてのまちづくりを進めている

〔特産品〕 三田牛、母子茶、三田うど、ソバ、三田米

〔観光〕 有馬富士公園、千丈寺湖（青野ダム）、花のじゅうたん、永沢寺花しょうぶ園、相野あじさい園、観光農園、キリンビアパーク神戸

〔イベント〕 三田国際マスターズマラソン、武庫川さくら回廊ウォーク、三田まつり

三田市長
竹内英昭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 5

美しい自然　息づく文化　笑顔でつながるひと　元気発信都市いばら

井原市（岡山県）

井原市長　瀧本豊文

笑って健康元気アップ事業：地区公民館での「笑いの講座」

はじめに

井原市は、平成17年3月1日に生活、経済、交通圏などで密接な結びつきのあった、芳井町、美星町と合併し、新たな一歩を踏み出しました。岡山県の南西部に位置する本市は、広島県に境を接しており、高梁川支流の小田川が市の南部を西から東に貫流し、その流域の平野部に市街地が形成されています。北部は、標高200〜300mの丘陵地帯で吉備高原へと続いており、温暖な気候に恵まれ、里山や田園に囲まれた、緑あふれる暮らしやすいまちです。

古くから繊維産業により発展してきた本市は、近年では内陸工業団地を中心にプラスチック製品、電子部品、輸送用機械産業などの集積が進み、岡山県南西部の中核都市として、着実な発展を遂げてきたところであります。

また、本市には、那須与一や北条早雲など歴史的に名高い武将や画聖・雪舟のゆかりの地として、多くの史跡などがあります。さらに、木彫界の巨匠・平櫛田中の作品を収蔵・展示した田中美術館があり、街角にも数々の彫刻が点在するなど、誰もが身近に芸術・文化に親しむことができる環境にあります。

そのほかにも、本市は「中国地方の子守唄発祥の地」として知られており、「ねんねこしゃっしゃりま〜せ」の旋律で始まる子守唄は、遠い昔から本市で歌い継がれています。この貴重な文化遺産を次代に継承するため、地域の方々が中心となり、毎年、子守唄音楽祭が開催されるなど、子守唄の里としてまちづくりを進めています。

健康寿命日本一を目指して

本市は、新市発足に伴い、現在、高齢化率は30％を超えております。今後も一段と上昇が予測される中で、誰もが元気で明るい毎日を送れるよう、健康に生活できる期間、いわゆる「健康寿命」のさらなる延伸が、求められております。

私は以前から「健康寿命日本一」を目指し、まちづくりを進めております。中でも「笑い」は、日常生活の中で、誰もが無理なく継続できる最高の健康法であり、円滑な人間関係をつくる生涯学習の第一歩でもあります。その効果に着目し、市民の皆さまの健康寿命の延伸と生涯学習の推進を図ることを目的に、昨年度、「笑って健康元気アップ事業」を新たに創設しました。落語家や大学教授による「笑いと健康講演会」や「笑顔の絵画コンテスト」を実施したのをはじめ、笑いの講師を各地区公民館や小・中学校へ派遣するとともに、笑顔の体操講師を各地区サロンなどへ派遣し「健康体操」を実施するなど、「笑い」に関するさまざまなイベントや講座を市内各地で開催いたしました。市民の皆さまにも大変好評で、健康寿命の延伸に向け、今年度も引き続き、実施しているところであります。今後も「笑い」を取り入れたソフト事業の展開により、いつまでも健康で、はつらつと生きるまちづくりに、全力を傾注してまいります。

また、現在、ハード事業におきましても、健康寿命の延伸を図る拠点施設「（仮）三地域三世代交流館」の建設を進めています。この拠点施設が、自然環境に恵まれた癒やしの場、各種教室などを通じての生きがいづくり・健康づくりの場、多世代の交流・ふれあいの場として、市民誰もが気軽に利用し、健康寿命のさらなる延伸が図られることを、期待しているところです。

今後とも、「健康寿命日本一」を目指し、関係機関と連携し、さまざまな施策に取り組んでいきたいと考えております。

活力と交流を生み出すまちづくり

都市の活力を高め、持続的な発展を実現していくためには、人・もの・情報の活発な交流により、まちににぎわいをもたらすことが重要です。

本市には、平成11年1月11日に開通した第三セクター「井原鉄道井原線」があります。岡山県西域と広島県備後圏域を結ぶ旅客輸送路線として、さらには、地域住民の利便性の向上、産業、経済、観光など、地域の発展に重要な役割を担っています。

この井原線を大いに活用し、平成19年10月から地域の皆さまや関係団体と協働で、毎月、井原駅前で「井原線DE得得市」を開催しております。このイベントでは、本市が誇る特産品である「ブドウ」や香りがよく品質が高い「明治ゴボウ」など、地元で取れた農産物などが販売されております。毎回、市外からも井原線を利用し、多くの方々に訪れていただき、まちに活気を与えていただいているところであります。

また、本市で喫緊の課題となっているのが、中山間地域の活性化です。本市の中山間地域には、今年4月にオープンしたアイスクリーム工房やそば打ち体験施設、観光案内所などを備える「星の郷観光センターこだわり特産館」をはじめ、星の郷青空市や葡萄浪漫館、明治ごんぼう村ふるさと市場などの地域農産物等直売施設や、星の郷ふれあいセンターなど、広域交流の拠点となり得る施設を数多く有しております。

今後も、これらの施設の交流機能をより一層高めるとともに、まちのにぎわい拠点としての機能強化を図り、活力と交流を生み出すまちづくりを進めてまいりたいと思います。

おわりに

このほかにもさまざまな諸施策に取り組んでいるところですが、将来都市像「美しい自然　息づく文化　笑顔でつながるひと　元気発信都市いばら」の実現に向け、魅力あふれるまちづくりを進めるため、「市政は市民のためにある」ことを念頭に、市民の皆さまとの対話を通じ、誰もが誇りに思える本市の構築に全力を傾注してまいりたいと考えています。

プロフィール

井原市長
瀧本豊文

◆**面積**　243・36㎢
◆**人口**　4万5851人
◆**世帯数**　1万6792世帯

〔将来都市像〕美しい自然　息づく文化　笑顔でつながるひと　元気発信都市いばら

〔まちの特徴〕県南西部に位置する中核都市　緑豊かな山々、満天の星空、清らかな川　美しい自然と歴史、文化の薫るまち

〔市町村合併〕平成17年3月1日、芳井町、美星町を編入合併

〔特産品〕ジーンズ、ブドウ、明治ゴボウ、乳製品、豚肉加工品

〔観光〕田中美術館、華鴒大塚美術館、嫁いらず観音院、天神峡、中世夢が原、美星天文台

〔イベント〕井原線DE得得市、井原市産業まつり、美星七夕まつり、天の川まつり、星の郷大神楽、ふるさと祭り（芳井・美星）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが市を語る 6

合志市（熊本県）

合志市長　大住清昭

“志(こころざし)”を“合(あ)”わせて、全国に誇れるまちへ

定住拠点都市～子育て支援日本一への取り組み

平成18年2月に、熊本市に隣接する菊池郡合志町と西合志町が合併し、新たに「合志市」として誕生し、3年がたちました。志を合わせるという字のとおり、市民と行政が一体となって、市の将来像である「未来輝く　産業・定住拠点都市」を目指し、協働によるまちづくりを進めています。

また、人口減少時代を迎えながらもなお本市の人口は増加傾向にあり、人口密度は熊本市に次ぎ、県内で2番目に高い市となっています。このことは活力の源であり、まちづくりを進める上で、大きな弾みとなります。効率的な行政運営を進めることにより、足腰の強い自治体になれると考えています。

本市は、交通アクセスにも恵まれており、県都熊本市とを結ぶ国道や鉄道に加え、熊本空港や九州自動車道からの利便性もよく、現在スマートインターチェンジの整備も進めており、今後の本市の産業の発展や地域の活性化に大きく寄与するものと考えています。

このほかにも、農業や工業も盛んで、自然に恵まれた快適な住環境が保たれている地域ではないかと思っています。

そんな本市をさらに元気で活力ある市にするため、平成19年に「未来輝く　産業・定住拠点都市」を将来都市像とした、「合志市総合計画」を策定しました。

また、この将来都市像の実現につながるテーマとして「子育て支援日本一のまちづくり」を、市の横断的課題として位置付けています。

例えば、小学6年生までの医療費の無料化に加え、通学路や公園の整備、地域での子どもたちの見守り態勢の確立など、子育て世帯の支援対策だけではなく、市全体の施策に「子育て支援日本一のまちづくり」の考え方を基本にとらえて取り組んでいます。若い人たちが住みたい、そして誰もが住みよいと思えるようなまちづくりを展開していきたいと考えています。

さて、そんな本市にとって、昨年は歴史に残る大変素晴らしい出来事がありました。北京オリンピック柔道男子66kg級出場の内柴正人選手が、見事2大会連続金メダルに輝いたことは記憶に新しいことかと思います。本市出身である内柴正人選手の活躍は、何より子どもたちにとって、未来に夢と希望そして勇気を与えてくれたことだと思います。名誉市民第1号となった内柴正人選手を招き、本年の秋には「内柴正人杯柔道大会」を行うことにしています。青少年の育成、またまちづくりの活力になればと願っています。

ハンセン病療養所菊池恵楓園の将来構想策定へ

本市には、全国に13カ所ある国立ハンセン病療養所の一つである「菊池恵楓園」があります。今年で創立100周年を迎え、現在の入所者は400名余り、平均年齢は78歳となっています。

昨年6月に「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が成立し、社会との共生に向けての取り組みが求められている中で、療養所所在地の首長として「菊池恵楓園将来構想検討委員会」を昨年11月に設置し、本年3月には将来構想の骨子を策定しました。

「入所者の方々が、菊池恵楓園で尊厳をもって一生を終えることができるような未来の菊池恵楓園の見通し、または望むべき姿」を目指しています。また、菊池恵楓園の近くには国や県の研究機関など官公庁の施設が数多く集中しており、近くには国道や県道、鉄道などが走っており、交通の利便性にも富んでいることから、この地域一帯をまちづくりの重点地域ととらえ、「メディカル・ステーションゾーン」として位置付けた構想を持っています。入所者の方々が、孤立することなく「人権の回復」や「生活の保障」といったことを念頭に置き、広大な土地の有効活用について、入所者の方々と共に考え、共に住みよいまちづくりにつながればと考えています。

地域開放を含めた将来構想が検討されている菊池恵楓園

私の目指す将来像は、「人にやさしい合志市づくり」です。一人でも多くの合志市民が人にやさしく感性が豊かで人権思想に満ち、そして本市を人間の尊厳を最大限尊重する自治体にしたいと思っています。

行政評価システムを取り入れた合志市総合計画

本市の特徴としてもう一つは、「行政評価システム」と連動した「合志市総合計画」の策定があります。

合併した当初は、合併協議会で策定した新市建設計画と私のマニフェストをベースに市政運営を行ってきましたが、前年、その二つを盛り込んだ「合志市総合計画」を策定しました。その進行管理を行っていくため、「行政評価システム」を導入し、計画に連動させました。すべての事業の成果を一つ一つ評価することで、市民の目線で、事業の効果や優先順位を論理的、客観的に判断し、さらに事業の選定や予算編成にも連動させています。

行政の評価は、利益創出が目的ではありませんし、市民が住民自治を担う主役ですから、市民の立場で評価を行い、次のより良い行政サービスに結び付けていくことが重要です。着実な計画の推進のため、この行政評価システムは大切な役割を担っていますし、「未来輝く　産業・定住拠点都市」を目指したまちづくりへの確かな歩みを支えるものであると思っています。

同様に、新しい時代に対応するため「合志市自治基本条例」の策定にも取り組んでいます。

「人と自然を大切にした協働によるまちづくり」を本市の基本理念として掲げており、市民自らが行うもの、地域が共同で行うもの、行政が直接行うもの、といった市民と行政の役割を明確にしながら、課題解決に向けた行動ができるまちを目指しています。

プロフィール

◆**面積**　53・17㎢
◆**人口**　5万4607人
◆**世帯数**　2万102世帯

〔将来都市像〕未来輝く　産業・定住拠点都市

〔まちの特徴〕市の中心部を鉄道が走り交通アクセスがよい。住環境の整備が整い人口増加の一途をたどっている

〔市町村合併〕平成18年2月、合志町、西合志町の2町が新設合併

〔特産品〕焼酎「竹迫城」、桑の実ワイン、桑の葉茶、スイカ、マンゴー、かすみ草、ゴマ製品、酪農製品

〔観光〕健康センター「ユーパレス弁天」、合志市総合センター「ヴィーブル」、弁天山公園、竹迫城跡公園

〔イベント〕竹迫観音祭、須屋小屋地蔵祭、内柴正人杯柔道大会、合志市民健康カントリーマラソン

合志市長
大住清昭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。